

「だがしや楽校を開こう！～新たなつながりと集いの場が未来をつくる！」

第1回 2009年6月9日(火) 午前10時～12時 あんさんぶる荻窪

ガイダンス「だがしや楽校って何なの？(駄菓子屋とおばあちゃん仮説)」

学習支援者：松田道雄さん(ブログ「夢の種まき楽校」<http://yumenotane.exblog.jp/>)

山形県出身。中学校教員、東北芸術工科大学研究員を経て、

現在は高千穂大学人間科学部准教授。

「だがしや楽校」の発案者。HP：<http://www.dagashiya-gakko.com/>

山形で活動しながら『月刊社会教育』、『新評論』等、様々な書籍で執筆・発信中。主著『だがしや楽校のススメ』(創童舎2003)など。

学習支援補助者：谷原博子さん

福岡県出身。FM福岡のアナウンサー、長崎国際テレビのキャスターに加え、番組制作のディレクターとしても活躍。現在は杉並区の地域コーディネーターをつとめ、また自然災害・危機管理等のドキュメント取材を中心にフリーアナウンサーとしても活動中。

【コースの目的】

現代社会に忘れがちになっている、かつての駄菓子屋的な様相を再考し(それは一体どんなことなのかを考え)そこから、杉並に住んでいる私たちが何か活動をみんなで作り出して(それはきっと現代社会に新たな活動として見られると思われませんが)、それによって、私たち一人一人の人生に何か新たな豊かさが生み出されることを願って、みなさんいっしょに楽しく活動していきましょう。その結果、きっと、私たちが行なう活動が楽しく生き生きしたものであれば、それは杉並区や日本の社会づくりにも共感されることになっていくと思います。

1. 受講生の自己紹介

20名の受講生が、講座に参加した動機や、この講座でどんなことがしたいのか、などを自己紹介という形で話しました。「杉並にずっと住んでいたものの、働きづめで地域とつながりがなく、この場でつながりをつくりたいと思った」、「地域の中に知り合いがほしいと思った」、「大人が気軽にいける居場所をつくりたい!」、「何か自分でできることで、地域に貢献したい!」など、皆さんのさまざまな思いをお互いに聞きあいました。

2. 松田さんによるガイダンス

「だがしや楽校」をつくるに至る経緯

松田さんが提唱する「だがしや楽校」のコンセプトや、現代社会における意義・意味を語っていただきました。

・駄菓子屋さんみたいな学校・・・駄菓子屋さんがもっている教育的効果の復活、例えば、学校を終えた後、駄菓子屋で玩具や仲間と遊ぶあいだに、駄菓子屋のおばあちゃんとの会話等の中で学ぶもの、それが実社会に出たときの社会力につながっていた。「だがしや楽校」には、そんな意味合いが込められている。

・「おすそわけ」という文化

駄菓子屋にはたいてい友だちと一緒にいく。そして、お互いに買ったものを分けっこして食べ合う。「ともに分け合う」という分配と交換行動は経済活動の原型であり、「ともに食べ合う」ことは社会集団づくりの原型である。勉強で競う（取り合う）こととは正反対の意味がある。

・「地図」の持つ意味

学校教育では、小学校3年生くらいから地図を持つようになる。それは、“地域との関わり”のスタートでもある。地図には、地域のさまざまな情報が網羅されており、自分が、どのように地域と関わっていくのか、その羅針盤となる。

・学校教育の“限界”を知る

座学を中心とした学校教育には限界がある。特に“体験”し学ぶこと（調べ学習）の大切さ。駄菓子屋には、子どもたちが楽しむ遊びと玩具、仲間との分け合い、おばあちゃんとの会話...そここそ、実際に社会力を育む場であった。

(注)

<学校教育> : 「数字」と「文字」に集約される

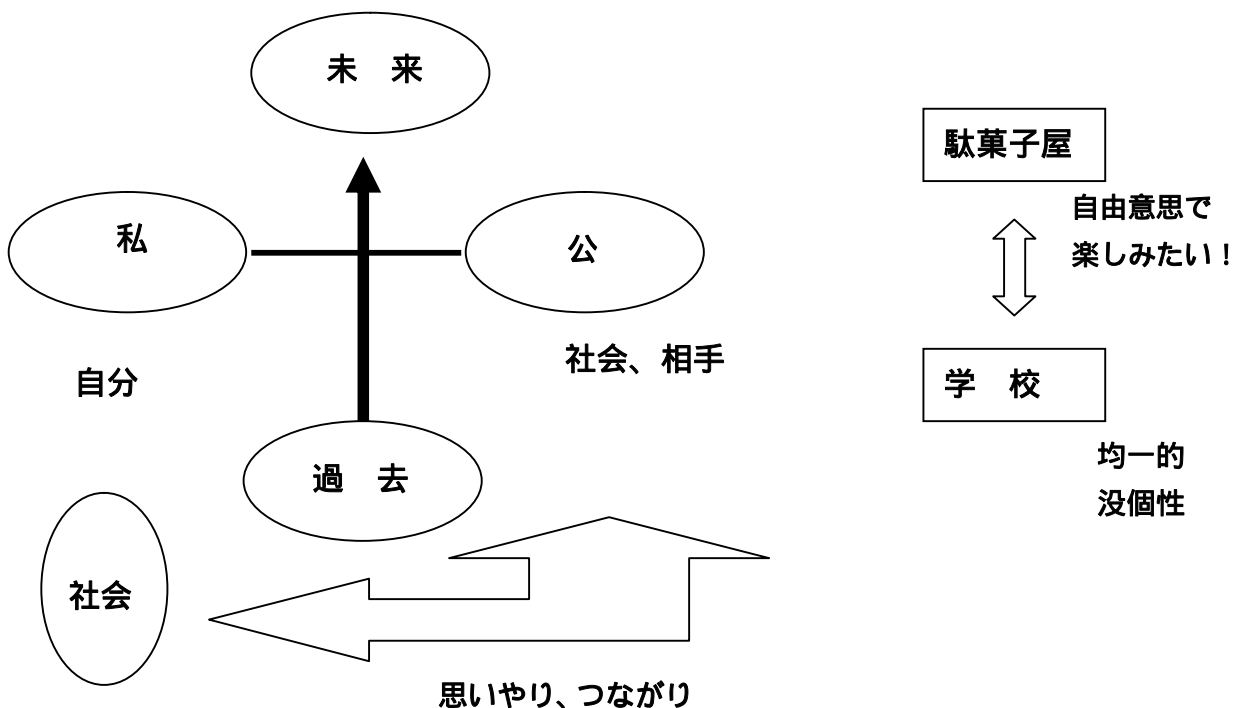
<駄菓子屋> : 素材、道具を皆で出し合う。キーワードは「分け合う」「つくる」「食べる」「集う」「体験する」など。

「だがしや楽校」のイメージ

・“未来志向”で昔の良さを活かす

ただ昔を懐かしむというのではなく、“未来志向”が必要。未来志向を持って、過去の思い出の中からアイデアを発掘することで、人生に楽しさをプラスすることが「だがしや楽校」の醍醐味である。

【「だがしや楽校のイメージ」】



3．谷原さんからのコメント

谷原さんより、地域コーディネーターとしての杉並区との関わりや、桃井第四小学校を取材した時の感想が語られました。特に、同校で行われている“名物”づくりが、「桃パン」として発酵し、地域交流につながっている話が印象的でした。

4．松田さんからの提案

松田さんから、次回から、「自分の“お気に入り”を持ち寄ろう！」との提案がありました。そのお気に入りが、「すぎなみ“だがしや楽校”」をつくる際の有力な道具となります。

「おすそ分け」紹介：

山縣県の西川町で山葡萄を栽培している工藤さんがつくっている「やまぶどうあめ」を紹介、講座参加者でお味見をしました。